

今年の大会は中部クラス委員の杉浦氏が準備をしていただきました。

エントリーが順調で、24艇ということでHMSにする必要がありましたが、中部では経験がなく人員も不足していました。

そのため、4回に一回休み運営にまわる方法にし、18艇の出場で6名が運営ということになりました。

この方法と、最近採用しているコース(上+ヒッチ+下ゲート)で何とかいけるのではないかと、ということになりました。

しかしHMSほど手間が掛からないとはいえ、選手のコールが必要であり大変ですが、本部池田氏、兵藤氏のご協力を得ることが出来、無事終わることができました。

レースは初日、2日目とも無風～微風に終始し、ストレスのたまるレース日和でした。

頼みの南風は不発で、終わった頃ようやく・・・といった状態で残念な結果でしたが、順風のなかで「すかーつとしたレース」をやりたいものですね。

今回、全国からピカント、フラクタル、ブリポップ、カンソン、トピコ・・・世界の最新の名艇が集結し、鮮やかな走りをみせていました。

また、私を含め自作で長期使用している方は、セール、リグなどチューニングを煮詰めています。

昨年の超微風の丹野池での敗戦を反省し、セールを若干深めとし、極端な構成を止めました。

また、スターンを数ミリ沈めたトリムを、インナーを前に移すことでバウトリムにしました。

これらの結果、微風でもままたま走るようになりました。

レース展開は、微風の中で40番の池島氏(ピカント)、59番平尾氏(サファイア)の走りが安定しており、昨年優勝の宗助氏(47/ピカント)や119番竹本教授(ブリポップ)も鋭い走りをするといった展開でしたが、2日目の14Rで89番片山氏(トピコ)が全艇をタイムリミットにするという、とんでもないことがおき、小生も敢無く撃沈、その後の15Rはスタートで地元藤田氏と仲良くなり、コースも悪く12位に沈みました。

その結果、平尾さんが1位という結果に。

やっちゃったな～ と反省しきり。

しかし、その後再計算を数回行った結果、再度首位に復活！(しぶとい)

ということで最後の最後まで冷や冷やしたレースでした。

最後になりましたが、大会を運営、サポートしていただきました本部池田氏、兵藤氏、中部支部谷口氏、竹内氏、鳥居氏、ギャラリーの皆様、誠にありがとうございました、心よりお礼申し上げます。